

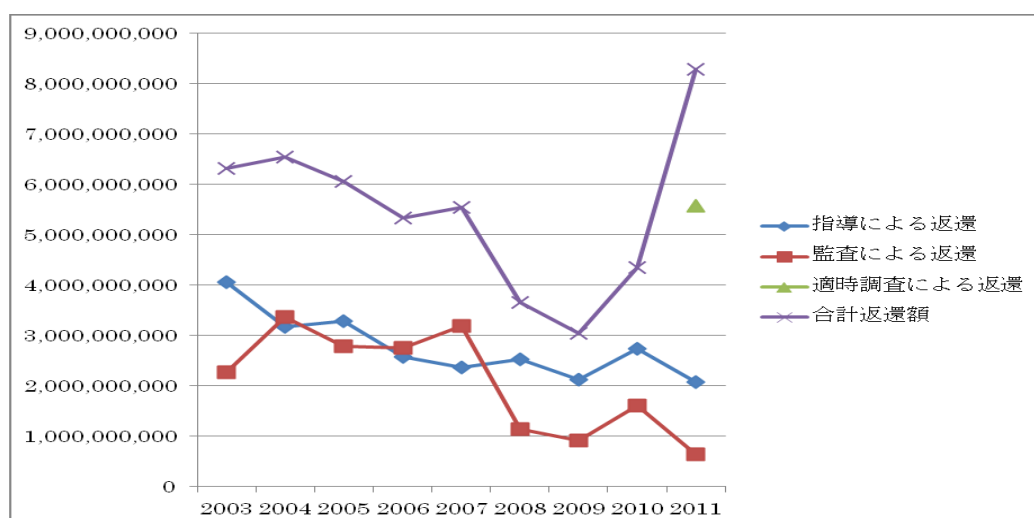
## 『医療機関のガバナンスと監査』要約

## 1. 医療機関を巡るガバナンスと監査に関わる問題

本論文は、人の生命や健康の維持、回復に努めることを目的として設立された医療機関におけるガバナンスと外部監査について検討を行っている。医療機関の外部監査について、なぜ人の生命や健康という公益に資する医療機関において、外部監査が必要とされるのかという疑問を持つかもしれない。言い換えるならば、財務諸表や内部統制などの保証や不正の防止、摘発による医療機関への関与は、人の生命や健康のために従事する者に対して想定できないもの、あるいはそれに触れてはいけないタブー視せざるを得ないものとして位置づけているのかもしれない。

しかしながら、聖業に奉仕する医師、歯科医師（以下、医師とした場合、歯科医師を含むものとする。）、その医師が医療行為を行う場である医療機関は、その聖業に反する不正がいつの時代にも存在していた。その不正の多くは、医療保険という医療サービスを受けるために国民が出したお金を巡る不正である（下記の図表参照）。聖域であるがゆえに関連づけることをタブー視されてきた医療と医療費（お金）、そこに非営利、公益であるからこそ、不正を防止するガバナンス体制や外部監査の役割があるのではないかという考えから本論文は出発している。

【図表】診療報酬の年間返還額の推移



注) 2011 年度は、2010 年度までの指導、監査の 2 本立てではなく、さらに適時調査（施設基準を届けている保険医療機関などについて、地方厚生（支）局が当該保険医療機関などに直接赴き、届けられている施設基準の充足状況を確認するために行う調査）の金額 55 億 8,133 万円を掲載している。したがって、総額が他の年度より増えている。

本論文では、医療機関における監査について、日本とアメリカの現状について整理、検討を行い、日本における医療機関の監査が注目されつつあるが、強制適用となっていないために監査対象医療機関が限られている部分について指摘を行うとともに、監査が医療機関の不正の防止に何らかの役割を担うことを指摘した。それに対して、州法などにより監査が強制されているアメリカにおける監査の実施状況の紹介とともに、日本にはない医療コスト報告書制度とその監査について検討を行い、当該制度が日本における医療機関の監査体制への何らかの示唆が見いだせるのではないかとといった視点で検討を行っている。

また、医療機関のガバナンスについては、アメリカおよびイギリスにおける医療機関や医療を巡るガバナンスに関する先行研究をまとめ、その中での監査の位置づけ、重要性について指摘を行っている。さらに、ガバナンスの一部を担う内部統制について、米国のトレッドウェイ委員会支援組織委員会(Committee of Sponsoring Organizations of the Treadway Commission : COSO)の「内部統制—統合的枠組み(Internal Control—Integrated Framework)と医療機関とを関連付け、医療機関における内部統制の構築において考慮しなければならない点を指摘するとともに、医療機関においてはその存続にも影響する医療リスクとの関連からリスクマネジメントに基づく内部統制について検討を行っている。

以上の検討から、医療機関における監査および内部統制を含むガバナンス体制の構築、充実は重要であり、その体制を整えることにより医療機関の透明性が向上するとともに、患者たる医療機関の利害関係者の安心性につながるとの結論を導き出している。

## 2. 本論文の構成と内容

非営利組織体が開設する医療機関の透明性の向上、信頼される医療機関となるための一翼を担う医療機関に対する外部監査、医療機関内に構築される内部統制やガバナンスに関する枠組みについて検討する本論文の構成とその内容は、序章を除き、3部構成となっている。

まず、第1部では、非営利組織体と外部監査についての基礎的な検討を行っている。つまり、非営利組織体の意義を明らかにし、検討対象である医療機関を開設する非営利組織体およびその医療機関に対する外部監査の必要性について整理をしている。その検討を受け、わが国の医療制度と医療機関の会計と外部監査の特徴を整理し、医療機関に対する外部監査の課題について整理を行っている。

第 2 部では、わが国との比較において、米国の医療制度および医療機関の会計と外部監査について整理を行っている。わが国と異なる特徴を有した米国の医療機関、医療保険制度およびその会計と外部監査制度の特徴を指摘し、わが国との違いとわが国への示唆を明らかにしている。

第 3 部では、日本の会計および外部監査制度の検討を踏まえ、医療機関内のガバナンス、内部統制について整理を行っている。わが国における医療機関ガバナンス論の先行研究の検討とともに、医療機関にとってガバナンス構築上、重要となる要素を抽出している。また、ガバナンスとの関連で医療機関内に整備される内部統制について、2004 年 9 月に公表された「全社的リスクマネジメント—統合的枠組み(Enterprise Risk Management—Integrated Framework)」および 2013 年 5 月に改訂された米国のトレッドウェイ委員会支援組織委員会(Committee of Sponsoring Organizations of the Treadway Commission : COSO)の「内部統制—統合的枠組み(Internal Control—Integrated Framework)」に関連づけて、医療機関における内部統制の特徴を明らかにしている。

これら 3 部構成での検討を通して終章では、わが国と米国での医療機関、医療制度、医療機関の会計および監査制度の違いから、わが国への示唆となる米国の特徴を指摘するとともに、医療機関にとって外部監査を実施することの意義に関する私見を示している。